

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（ 三重県立城山特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して自分の生き方を選択できる力をつけ、豊かな生き方ができる子ども。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像を念頭に置き、子どもの可能性を信じ、子どもの生き方や考え方を尊重し、子どもを支えることができる教職員。 ○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈児童生徒〉一人ひとりの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してほしい。</p> <p>〈保護者〉子どもたちが楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として生きる力を身につけさせてほしい。</p> <p>〈地域社会〉子どもたちが様々な体験や経験を積み、社会の一員として地域で生活できるよう、子どもたちの活動を広げていってほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p>〈児童生徒、保護者〉安全に安心して過ごせる学校であること。学校（教職員）を信頼し様々なことが相談できること。 〈地域社会〉学校の活動内容について十分に知ることができ、活動に協力できること。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p>〈児童生徒〉体調を整え元気に登校してほしい。自分の夢や将来像に向かってチャレンジする意欲を持ってほしい。 〈保護者〉教職員との信頼関係のもと、子どもたちの生き方を応援してほしい。 〈地域社会〉ともに子どもたちをはぐくむための一員となってほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>・保護者との信頼関係を作るために、良いことも悪いことも情報共有をすることを考慮していってほしい。スピーディーに正確に伝えることで、保護者の安心につながるはずである（学校関係者評価）。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>・児童生徒のよりよく生きようとする力を育むため、教職員が対話を通して授業改善を進めていくことが必要。</p> <p>・児童生徒の障がいの程度が重度重複・多様化してきているため、自立活動についてさらに授業力を向上させることが必要。</p> <p>・児童生徒が地域社会で生き生きと生活できるようになるため、本校の教育活動について、地域社会や関係諸施設、団体等へ積極的に発信していくことが必要。</p>	
	学校運営等	<p>・児童生徒にとってより安全で安心な学校となるよう、医療的ケアや危機対応時の体制、また情報管理と情報共有のあり方について、一人ひとりの教職員が十分な認識と対応力を身につけることが必要。</p> <p>・各学部や分掌間の連携を密にして、業務の効率化を図り、時間外労働時間の縮減に取り組むことが必要。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>・交流及び共同学習の取組を通して、児童生徒が地域で生き生きと生活できる“人権尊重の地域づくり”をめざす。</p> <p>・医療、福祉、労働等に係る諸機関との連携を強化し、多様なニーズに対応できる進路指導を通じて、児童生徒の自立と社会参加を促進することをめざす。</p>
------	---

- ・丁寧なコミュニケーションを積み重ねることにより、保護者をはじめ関係機関等との、信頼関係に基づいた連携をめざす。
- ・情報の適切な管理や危機管理体制について見直しを重ね、安全で安心な教育環境の整備を進める。
- ・効率的な業務の進め方について絶えず検討し、働きやすい学校となるよう改善を進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力・指導力の向上	<p>(1)キャリア教育の視点に基づいた個々の目標を設定し、その目標を達成するための授業作り、授業改善を実施する。(小学部)</p> <p>【活動指標】</p> <p>学期に1回、2限目の自立活動の授業について、個別の指導計画を使用して話し合う機会を設定する。</p> <p>【成果指標】</p> <p>話し合いによって、授業改善に役立った:80%以上</p> <p>(2)新学習指導要領の本格実施を控え、職員の力量の向上を目指す。生徒の資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け職員間で協議し、授業改善に取り組む。生徒の実態把握を行い、その結果を授業研究等に活かす。(中学部)</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 学習活動での「主体的な活動」や「生徒同士の関わり」をテーマに学部で協議をする。</p> <p>② 自立活動の視点で実態把握を行い、授業研究に取り組む。</p> <p>③ 授業力の向上を目指し、「生徒の主体的な学習」を keyword に「授業改善週間」を実施する。</p> <p>④ 次年度以降に向け、教育課程の反省をする。</p> <p>【成果指標】</p> <p>① 生徒の「主体性」や「関わり」についての学部協議。→重度の生徒について、学期に1回。</p> <p>② 実態把握を活かした学習指導案の作成。→クラスで年間1回以上。</p> <p>③ 授業改善シートを活用した「授業改善週間の実施」。→11月に2週間</p> <p>④ 本年度の教育課程の反省と次年度以降への意見集約。→2月にアンケート形式で実施</p>	<p>(小学部)84%</p> <p>テーマに基づいた話し合いを行うことで改善点が明確になり、2学期以降の授業に反映させることができた。来年度に向けて、開催時期を調整する、具体的なテーマ設定、自立活動以外の授業についても話し合うなど検討したい。</p> <p>(中学部)</p> <p>1 学期に学部研修を中心に「主体性」「関わり」について話し合う場を設定、菅家の共有と授業づくりの向上を図った。</p> <p>5 月:流れ図を用いて自立活動の実態把握。7 月授業研究で指導案作成。</p> <p>10 月:授業改善週間の実施。「生徒の主体的な学習」を視点に取り組んだ。</p> <p>新指導要領の目標、内容を確認、意見交換。</p>	

	<p>(3) 個々の生徒の卒業後の生活をイメージしながら具体的な目標を設定し、その達成に向け授業内容や指導のあり方を検討・改善する。(高等部)</p> <p>【活動指標】授業内容や指導の在り方に関する話し合いの機会を学部デー等を利用して確保する。(年3回以上)</p> <p>【成果指標】話し合いが授業の改善に役だった：60%以上</p>	<p>(高等部)80%</p> <p>学部研修や長期休業期間に、授業の持ち方を検討する機会を持った。改善という指標は出たがさらに検証が必要。</p>	
--	---	--	--

改善課題

<p>・高等部の自立活動、教育課程についての再検討</p> <p>教育活動の集大成としての高等部において、生徒が個々の社会的自立を可能にする力の基礎をしっかりとつけることが必要である。そのためには自立活動における指導内容を個別の指導計画と照応させながら見直すこと、的確な指導を行えるだけの教師の力量アップに努めたい。そうした教育活動に必要とされる時間数が十分に確保できるよう教育課程を見直していく。</p> <p>・進路指導（支援）にかかる取組の再検討</p> <p>日常の支援にかかる情報や卒業後の進路についての情報を、高等部だけにとどまらず他学部の教職員や保護者に対しても定期的に発信し、早期から進路を意識してもらうことで、学部を超えて学習の取組が深まったり、より適切な指導につながったりする。そのため、積極的な進路開拓や情報収集を引き続き行うとともに、そこから得た情報を効果的に対象に周知できるよう工夫を重ねていく。</p>

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
研修(資質向上の取組)	<p>(1) 校外の研修会及び研究大会等への参加</p> <p>【活動指標】校外の研修会等への参加 2回以上/年</p> <p>【成果指標】校外での研修会等に係る校内での情報交換会への参加 60%以上</p>	<p>中肢研、全肢研、先進校視察(計画)その他個人での参加多数。研修だよりや交換会で情報共有。</p>	
	<p>(2) 校内研修会の充実</p> <p>【活動指標】校内研修会の実施 10回以上/年</p> <p>【成果指標】校内研修会への参加人数 のべ 200人以上</p>	<p>10回(10月末)</p> <p>全体研修5回、学部研修8回(11月末)</p>	
情報提供	<p>(1) 公開研修会の充実</p> <p>【活動指標】公開研究会の実施 2回以上/年</p> <p>【成果指標】公開研究会参加者の満足度(良かった+とても良かった) 80%以上</p>	<p>2回実施(10月末)</p>	
	<p>(2) 地域等への情報発信</p> <p>【活動指標】学校ホームページの更新</p> <p>【成果指標】学校ホームページの更新 毎月1回以上</p>	<p>1.か月に1回の割合(11月末)</p>	
組織運営	<p>(1) 情報管理と情報共有</p> <p>【活動指標】個人情報等の管理に係る研修会の実施</p> <p>【成果指標】研修会の満足度(肯定的評価)80%以上</p>	<p>1回実施(8月)</p> <p>満足度は管理職の個別面談にて聞き取り</p>	

	【活動指標】学部、学年、分掌を超えた情報共有のための話し合い(校内関係者会議)の実施 必要に応じ随時	校内関係者会議は1ケース3回実施(継続中)	
(2)	資料の事前配付等による効率的な会議等の運営 【活動指標】職員会議、運営委員会、各分掌・学部会及び各委員会の60分内の終了 【成果指標】60分内に終了した会議 80%以上	84.2%(10月末)	
(3)	働き方改革を踏まえた効率的な業務の推進 【活動指標】リフレッシュデーの実施 月1回(最終金曜) 【成果指標】 ・リフレッシュデーにおける18時全員退校 8回以上 ・時間外労働時間 月45時間を超えた教職員 年2人以下	これまでの定時退校日では全員18時前に退校。 時間外労働が月45時間を超えた教職員は4名(10月末)	

改善課題

- ・文書、行事等の見直し(効率化)
類似の文書が散見されたり、保護者に同様の記載を依頼する文書が複数あったりするため、依頼⇒回収⇒整理をたびたびおこなう必要が生じている。必要な情報を取りまとめ一元管理できるようなシステムづくりに取り掛かる。時間外勤務を含めた総勤務時間の抑制については、ほぼできているが、時間内の勤務において、より一層の効率化が図れる余地はあると考えている。
- ・学部や分掌を超えた情報連携、支援連携の在り方
教職員間の同僚性を高めることが、情報連携や危機管理の点でも有効であるため、コミュニケーションスキルの向上にかかる研修等についても実施を検討したい。
- ・保護者や地域への情報提供(広報)の在り方
学校HPや「まちこみメール」による情報発信については、個人情報の保護や危機管理の観点も踏まえつつ、必要な情報を適切なタイミングで掲載できるようにしたい。
- ・カリキュラム・マネジメントの考え方に基づく教育課程の評価
- ・自立活動の展開について
- ・12年を見通した支援(進路指導)の在り方

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	個々の教職員の意識や教育技術を高めることにとどまらず、学部を超えて連携することでより良い教育活動が展開されることを期待したい。地域や関係機関への情報発信を積極的に行ってもらえれば協力できることも増えてくると考える。
---------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動における指導内容を個別の指導計画と照応させながら見直すこと、的確な指導を行えるだけの教師の力量アップに努める。 ・教育活動に必要なとされる時間数が十分に確保できるよう教育課程を見直し改める。 ・進路情報、支援情報の積極的な収集と周知方法を改善する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学部や分掌を超えて問題検討ができる機会の設置。 ・教職員間の対話を深め同僚性を高めるための取組として、よりよいコミュニケーションについて研修を行う。 ・コンプライアンスや情報管理を含め危機管理意識を持ち続けることができるよう、継続的な取組をすすめる。